

農薬適正使用スローガン

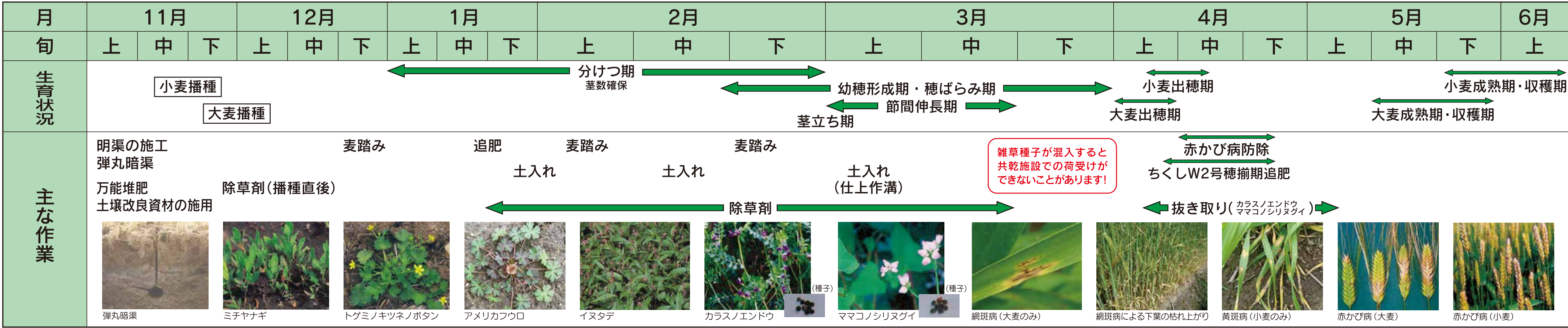
1.散布前に必ず農薬ラベルを確認！
2.散布時に、近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底！
3.散布後に必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄！
4.防除履歴は、正確に記帳！

令和6年播き（令和7年産）

麦作ごよみ



筑前あさくら農業協同組合
朝倉地域担い手・産地育成協議会



【喜ばれる筑前あさくらの麦】生産拡大運動

①共乾施設の誘導計画に沿った麦の作付け
②品質のアップ（評価項目達成のため）小麦 目標タンパク値 ちくしW2号 12.0%以上
チクゴイズミ・ニシホナミ 9.7%以上
大麦 目標容積重 709g/ℓ以上
③単収（収量）のアップ 目標収量 大麦 500kg/10a
小麦 500kg/10a
④生産履歴の記帳・GAP（生産工程管理）の実施

1. 排水対策…麦は湿害を受けやすい

・溝堀機による明渠施工
・弾丸暗渠（2m以内の間隔）
・畝立て播種
・ほ場の周囲と畝間の排水溝整備

・ほ場周囲に深さ20～30cm程度の明渠施工
・排水口につないでおく
・ほ場内のうね溝もこの明渠につなぐ

あぜ

（10a当たり）

	資材名	施用量	備考
必ず	万能堆肥	2t	地力増強・土壌物理性の改善
	稲わら	全量	耕起前に硫酸10kg/10aを施用（稲わらの分解促進）
いすれか	ミネラルG	200kg	鉄分・ケイ酸・微量要素の供給
	ケイ鉄		石灰・ケイ酸・鉄分の供給
	生石灰	120kg	酸性土壌対策

麦は酸性土壌を嫌う（特に大麦）
・土壌診断に基づく土づくり・・・適正pHを保つ（6.0～6.5）。腐植3%以上を目標とする。

3. 種子消毒

・種子更新・・・栽培履歴証明・品種固有の特性維持

	対象病害虫	農薬名	種子10kg当たりの使用量
大麦	網斑病	トリフミン水和剤	50g
	黒穂病		
小麦	鳥害	キヒゲンR-2フロアブル	200ml
小麦	ヤギシロトビムシ	クルーザーFS30	60ml

4. 播種基準

（10a当たり）

項目	小麦	大麦
播種適期	11月15日～25日	11月25日～12月5日
播種量	6～7kg	

※共乾施設の荷受期間内に収穫できるよう、適期に播種する。
※播種量が多すぎると倒伏しやすくなる。
※播種適期より遅播きの場合は播種量を多くする。
※播種深度は3～4cmとする。

小麦1升=1.5kg
大麦1升=1.3kg

		基肥		追肥① （1月中下旬）		追肥② （3月上旬）		成分量（10a当たりkg）		
大麦	はるか二条	ちくこのめぐみ444 （14-14-14） 40kg	きばる麦追肥一発405 （24-0-5）30kg 又は ちくこのめぐみ444 30kg	①一発追肥体系		一発追肥体系		N	P	K
	チクゴイズミ ニシホナミ ちくしW2号			②2回追肥体系		2回追肥体系		12.8	5.6	7.1
小麦	チクゴイズミ ニシホナミ ちくしW2号	40kg	30kg	硫酸 10kg		硫酸 10kg		11.9	9.8	9.8

注）大豆後作で地力が高い場合は、基肥を半量とする。

【ちくしW2号の穂揃期追肥】（10a当たり）

穂揃期追肥① 出穂後5～10日後	穂揃期追肥② 1回目の7～10日後
尿素葉面散布 1回目 5kg/水100ℓ （赤かび病防除と同時）	尿素葉面散布 2回目 5kg/水100ℓ （赤かび病防除と同時）
硫酸25kg又は尿素15kg	－

【省力化施肥例】基肥一発肥料の施肥体系

	品 種	肥料名	10a当たり 施用量	成分量（10a当たりkg）		
小麦	チクゴイズミ ニシホナミ ちくしW2号	新 麦名人 （27-6-6）	40～45kg	10.8 12.2	2.4 2.7	2.4 2.7

※大麦、大豆後には基肥一発肥料は使用しない。
（遅れ穂、青未熟粒の発生、生育の調整が難しいため）
※基肥一発肥料は年次により減収する。

6. 雑草防除					(10a当たり)	
除 草 剤 名		対象雑草	使用量並びに水量		使用時期	注 意 事 項
ラウンドアップマックスロード バ ス タ 液 剤 ブリグロックスL		イネ科・ 広葉雑草	500ml	水100ℓ	耕起前	●低圧で風向きなどに注意し付近の作物にかからないように散布する。
			500ml			
			1000ml			
リベレーターG(粒剤)		イネ科 広葉雑草	4～5kg	均一に散布	播種後～麦2葉期 （雑草発生前～ イネ科雑草1葉期まで）	●リベレーターは、散布後、大麦で白化症状を生じやすいが、その後の生育・収量に影響はない。 ●土壌が乾燥しているときは水量を多くする。 ●薬害回避の為、覆土は3cm程度とする。 ●重複散布やムラ散布に注意する。
リベレーターフロアブル			60～80ml			
ハ ー モ ニ ー D F		イネ科・広葉雑草 （キツネノボタン ミチヤナギ アメリカフウロ タデ類 カラスノエンドウ）	5～10g	水100ℓ	小麦 播種後～穂ばらみ期 （収穫45日前まで） 大麦 播種後～節間伸長期前	●抵抗性スズメノテッポウ(ゴビエ)には効果がない。 ●散布後黄化する場合がある。 ●散布器具類は、出来るだけ早く洗浄する。 （消石灰水）
バ サ グ ラ ン 液 剤		広葉雑草 （キツネノボタン ミチヤナギ アメリカフウロ ヤエムグラ タデ類）	100～200ml	水100ℓ	小麦 生育期 （収穫45日前まで） 大麦 生育期 （収穫90日前まで）	●雑草3～6葉期の間に、雑草にかかるように均一に散布する。 ●散布後、曇天や降雨が続くと、効果が劣ることがあるので、晴天時を見計らって散布する。
エコパートフロアブル		ヤエムグラ (ノボリグサ) (2～6節)	50～100ml	水100ℓ	節間伸長期開始期まで (広葉雑草2～4葉期、 ヤエムグラ2～6節)	●散布後、麦の葉に一過性の軽微な白斑・白点を生じるがその後の生育・収量に影響はない。

※野菜等がある所では散布に十分注意する。

※共乾施設での種子混入防止のため、雑草が多い場合は播種直後と中期の2回雑草処理を行う。
※ネズミムギ等が発生する圃場では、1月上旬の雑草発生前にトレファノサイド乳剤を300ml/100ℓ散布する。

7. 麦踏み・土入れ

1）麦踏みは、12月下旬～2月下旬の間に3回程度必ず行う。
2）土入れは、除草・作溝を兼ねて1月下旬から3月上旬までに3回程度必ず行う。
3）土入れ・麦踏みは土壌が乾いている時に行う。

8. 病害防除基準

赤かび病防除を必ず行ってください！！

防除を行っていない麦は共乾施設等での荷受けはできません。
※赤かび病に弱いちくしW2号とはるか二条は2回防除する。
※その他の品種については、開花期以降も雨が nhiều 場合は2回防除が必要。

(10a当たり)					
防除時期	農 薬 名	散 布 量		使用回数	
				大麦	小麦
赤かび病：4月15日頃 (2回目は1回目の7～10日後)	ワークアップフロアブル	2000～3000倍	水100ℓ	3回	3回
	ワークアップ粉剤DL	3kg			
	シルバキュアフロアブル	2000倍	水100ℓ	2回	2回
	トップジン M 水和 剤	1000倍	水100ℓ	1回	2回

※網斑病・黄斑病の発生した圃場では、3月中下旬頃（網斑病：3月中下旬・黄斑病：3月下旬）にチルト乳剤25を1000倍で散布する。
※網斑病・黄斑病が多発すると減収する。
※ドローン散布の場合は、希釈倍率が変わる。

9. 収 穫

1）出穂後収穫前までにカラスノエンドウ・ママコノシリヌグイの抜き取りを徹底する。
2）麦の早刈りは品質を著しく低下させる。
3）刈取適期は、成熟期より3～4日遅らせた時期。（穀粒水分25%以下）
4）土づくりのため硫酸10kg/10aを施用して麦わらをすき込む。

麦 種	品 種 名	出穂期	成熟期	稈長cm	穂長cm	耐倒伏性	穂発芽性
大麦	はるか二条	4.3	5.15	79	6.5	強	やや難
小麦	ちくしW2号	4.5	5.29	84	9.2	強	難
	チクゴイズミ	4.6	5.29	88	8.5	やや強	中
	ニシホナミ	4.9	6.1	79	8.4	強	難

注）農薬購入の際は印鑑持参のこと。
注）農薬、肥料は令和6年8月26日現在の登録状況に基づき、記載しています。

農薬、肥料、資材の注文はJAへ！！